

「アクティブ・ラーニング2017」のスライダー1です。

前号(第270号)で報告した「学習指導委員会拡大研修会」で私が発表した「**アクティブ・ラーニング2017** -論理力の育成と「TO学習」-」のパワーポイントスライド全30枚を2号にわたって15枚ずつ掲載します。◆小さい字も拡大すると読めます!

<p>茨城県高等学校長協会 平成28年度 学習指導委員会拡大研修会 アクティブ・ラーニング2017 -論理力の育成と「TO学習」- 茨城県立並木中等教育学校 校長 中島博司 2017.9.11(MON)</p>	<p>「アクティブ・ラーニング」とは</p> <ul style="list-style-type: none">●「主体的・対話的で深い学び」 (文部科学省 2016~)●略して AL	<p>京都大学の溝上慎一教授による「アクティブラーニング」の定義(2014)</p> <p>一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。</p> <p>【アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換】(2014)より</p>
<p>「アクティブ・ラーニング」の目的は</p> <ul style="list-style-type: none">●「アクティブラーナー」を育成すること●「アクティブラーナー」とは = 能動的学習者	<p>AL型授業の定義は</p> <ul style="list-style-type: none">●「アクティブラーナー(能動的学習者)」を育成することを目的としている授業は、みなAL型授業である。	<p>AL型授業を大きく2つに分けると</p> <ul style="list-style-type: none">● イベント型● 通常授業型
<p>2015年は 高校アクティブ・ラーニング元年</p>	<p>2016年は 高校アクティブ・ラーニング・セカンドステージ</p>	<p>◆セカンドステージの 3つのキーワード</p>
<p>◆第1のキーワード アウトプット (OUTPUT)</p>	<p>◆第2のキーワード 協働 (COOPERATION)</p>	<p>◆第3のキーワード リスペクト (RESPECT) 敬意を払う 尊敬する</p>
<p>「アクティブ・ラーニング」★イメージ2016 アクティブラーナー(能動的学習者)の育成</p> 	<p>アクティブ・ラーニングの4つの課題</p> <ol style="list-style-type: none">① AL型授業が形だけになってはいないか。② アクティブラーナー(能動的学習者)の育成という目的に向かっているか。③ ALか講義かという二項対立的な議論になっていないか。④ ペアワークやグループワークだけで学力は向上するのか。	<p>中島考案 「AL指数」</p> <ul style="list-style-type: none">● ALの実施率を示す指数● 50分授業でAL5分なら「AL10」● 50分授業でAL10分なら「AL20」● 週5時間の授業でAL1時間の場合も「AL20」